

セカンドオピニオン

株式会社大善
SDGs リンク・ファイナンス

発行日:2026年3月31日

発行者:第四北越

リサーチ&コンサルティング株式会社

本文書は、SDGsリンク・ファイナンスに関するセカンドオピニオンである。

1. 発行人の概要

(1) 事業概要

- 株式会社大善(以下、同社)は、長岡市に本社・工場を構え、工作機械や産業機械に使用される部品の精密切削加工を主力事業としている。大小さまざまな設備を用いた高精度加工に加え産業機械のブロック組み立て¹にも対応し、顧客ニーズに合わせた柔軟な生産体制を構築している。
- 同社は1973年の創業以来50年以上にわたり、精密切削加工に関する経験とノウハウを蓄積してきた。立型・横型マシニングセンター、横中ぐり盤、NCフライス、旋盤など充実した保有設備に加えて、許容公差1ミクロン(1/1000mm)という高精度の顧客要求に対応する熟練工の技術力が同社の強みである。

【同社の保有設備の一例】

<立型マシニングセンター①>



<立型マシニングセンター②>



<横型マシニングセンター>



<横中ぐり盤>



<NCフライス>



<旋盤>



資料:大善のWebsite <https://www.ohzen.jp/equipment/>

¹ 産業機械など大型機械の製造時に鋼構造物を小さな要素(ブロック)に分割して別々に製造し、最終的にそれらを組み合わせて1つの製品を完成させる生産方式。

- 同社の取引先は、工作機械、産業機械、デジタル測定器の部品など、主に切削工具製造の地元大手メーカーとなっている。また、高い技術力と永年築いた信頼関係により、新潟県内外の大学や研究機関から各種実験機器製作を請け負うケースもある。

【同社の製品概要・主要納入先】

製品概要

- 工作機械
- 産業機械のブロック組み立て及び部品加工
- 大学実験機器の製作
- 測定器部品加工
- ドリル再研磨
- 直動クロスローラーガイドの加工

主要納品先

- ユニオンツール株式会社 様
- DMG MORI Precision Boring株式会社 様
- 株式会社NICCO 様
- 株式会社 ニッカン 様
- 日本シイエムケイ株式会社 様
- 慶應義塾大学 様
- 長岡技術科学大学 様

資料:大善のWebsite https://www.ohzen.jp/company_overview/

- 同社は、設計図面に対し高精度で加工することを得意としている。製造工程は、まず顧客から図面を徴求。次に加工に適した材料を調達し管理者の作業指示にもとづき加工に取り組む。その後、①旋盤加工、②マシニング加工、③フライス加工、④穴あけ加工、⑤研削・研磨加工、⑥検品・納品の流れて工程を進める。
- 主要な加工品のうち、工作機械に組み込まれるスライドレール部品については、スライド時に生じる摩擦を極限まで低減することが求められる。チタン・マグネシウムなどの軽量素材にも対応可能な加工技術は顧客から高い評価を得ている。また、デジタル測定器の部品は、顧客製品の品質検査のために用いられる。ミクロン精度が求められるため、素材の切り出しや仕上げの研磨工程において、永年の経験で培われた熟練工の技術が活用されている。

【同社の加工品の一例】



資料:大善提供

(2) 経営のモットー

同社は、「これまで培った経験と技術をもとに、地域社会に貢献しつつ、より高い品質、より高い精度の加工に挑戦し続けます。」というモットーを掲げ、経営を行っている。

【同社の経営のモットー】



資料:大善提供

2. KPI の選定

KPI の選定は、以下の観点から適切である。

(1) KPI の概要

KPI(重要業績評価指標)は、「売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2)」である。同社は自社の温室効果ガスの Scope 1 と Scope 2²を算定し、「売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2)」の数値目標を定め、その達成を通じて企業として地球温暖化の抑制に貢献することを目指すこととする。

なお、「売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2)」は、定量的に確認できるものである。

(2) KPI の重要性

同社が KPI として定めた「売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2)」の削減は、地球温暖化の抑制に貢献する。

地球温暖化は大気中の温室効果ガスの濃度上昇が原因であり、温室効果ガスの排出削減に取り組むことは世界的な課題となっている。2015 年に開催された国連気候変動枠組条約締約国会議 (COP21) では、温室効果ガスの削減に関する国際的な枠組みであるパリ協定が採択され、主要排出国を含む全ての国が排出削減に取り組むことが合意された。

日本国内においても、2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルと脱炭素社会の実現を目指すことを 2020 年 10 月に政府が宣言している。

温室効果ガスは個人の日常生活や企業の経済活動に伴って排出されるため、あらゆる人々や企業が主体的に取り組む必要がある中、企業として温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組むことは、脱炭素社会づくりという国の目指す方向と合致している。

また、同社は前掲の経営のモットーにおいて、「これまで培った経験と技術をもとに、地域社会に貢献しつつ、より高い品質、より高い精度の加工に挑戦し続けます。」と謳っている。技術力を高めつつ地域社会に貢献していくためには、温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組み、脱炭素経営を進めることが重要である。したがって、同社が目指すべき方向と KPI の内容は合致しており、有意義なものとなっている。

なお、KPI は同社の取締役会で、その達成状況を定期的に確認・協議するなど、経営陣が適切に管理していく方針にある。

² Scope 1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出 (燃料の使用、工業プロセス)

Scope 2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用による間接排出

3. 年次別目標の設定

年次別の目標は、以下の観点から適切である。

(1) 年次別目標の内容

同社は KPI である「売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2)」の年次別目標を設定した。

排出量 (単位: t-CO₂) を年間売上高 (単位: 百万円) で除した「売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2)」を指標として使用し、以下の目標を設定している。達成目標は年度ごとに設定されており、毎年の達成状況をみて判定する。

なお、同社は第四北越銀行の協力を得て、年次別目標を設定している。

【売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2) の年次別目標値 (白抜きの数値)】

判定期	売上あたり CO ₂ 排出量 (Scope 1・2) (単位: t-CO ₂)	2025 年 10 月期比 削減率
2025 年 10 月期 (実績)	0.215	—
2026 年 10 月期	0.206	4.2%
2027 年 10 月期	0.197	8.4%
2028 年 10 月期	0.188	12.6%
2029 年 10 月期	0.179	16.8%

(2) 年次別目標の適切性

① 同業他社等との比較

同社は温室効果ガスの排出削減に取り組む国際的な枠組みである SBT (Science Based Targets) の認定基準をベンチマークとした削減率をもとに年次別目標を定めている。

SBT は近年、企業が高いレベルで温室効果ガスの排出削減に取り組んでいることを対外的に示す国際スタンダードとなっており、国内でも大企業などを中心に参加する企業が増加している。参加を希望する企業は、自社の削減目標を定めて SBT 事務局より認定を受ける仕組みとなっている。認定の要件は厳しく、自社の直接の排出量 (Scope 1 と Scope 2) では、パリ協定が目指す 1.5°C 目標³と整合的な年 4.2%以上の削減の継続が求められる。

³ 世界が取り組むべき温暖化対策の国際的な枠組みである、パリ協定で合意された産業革命以来の平均気温 2°C よりも十分低く保ち、1.5°C に抑えることを目指す目標。

同社は自社の排出する温室効果ガス (Scope 1と Scope2) について、年平均 4.2%を削減する「売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2)」の年次別目標を設定している。売上あたりの基準ではあるものの、年平均 4.2%の削減継続は国際的に高いレベルとされている SBT の水準と同水準であり、同社の年次別目標は適切であると判断できる。

【SBT の要件】

目標年	申請時から5年以上先、10年以内の任意年
基準年	2015年以降、最新のデータが得られる年での設定を推奨
削減対象範囲	Scope 1, 2, 3排出量 ただし、Scope 3がScope 1~3の合計の40%を超えない場合には、Scope 3目標設定の必要は無し
目標レベル	下記水準を超える削減目標を任意に設定 ■ Scope 1, 2 少なくとも年4.2%削減 (1.5℃目標と整合性をとる) ■ Scope 3 少なくとも年2.5%削減 (2℃を十分に下回る目標と整合性をとる)

資料:環境省「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」発表の資料をもとに当社作成

②達成方法と不確実性要因

同社では、今回の KPI である「売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2)」を把握するために、CO₂ 排出量 (Scope 1・2) を自社で計測している。また、無駄な電力の使用を削減するなど省エネの取り組みを実践している。

一方、受注量が増加することに伴い、使用電力量をはじめとするエネルギー使用量が増加することも想定される中、同社では、さらなる省エネに努めるとともに、エネルギー源の転換や高効率な設備の導入・更新を実施していくことを検討している。今後も先を見据えた迅速な意思決定を重視し、不確実な要因に対して対処していく方針である。

③SDGsへの貢献

KPIとして定めた「売上あたり CO₂ 排出量 (Scope 1・2)」を削減することは、SDGs の 17 の目標のうち、具体的には「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」のターゲット「7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。」や、「13. 気候変動に具体的な対策を」のターゲット「13.1 すべての国々で、気候関連の災害や自然災害に対するレジリエンスと適応力を強化する。」の達成に貢献することが期待される。

【SDGsの目標】

SDGsの目標	ターゲット
 <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。
 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	13.1 すべての国々で、気候関連の災害や自然災害に対するレジリエンスと適応力を強化する。

資料:「SDGsとターゲット新訳」制作委員会「SDGsとターゲット新訳 Ver.1.2」
https://xsdg.jp/pdf/SDGs169TARGETS_ver1.2.pdf

4. 私募債の特性

私募債の特性は、以下の観点から適切である。

同社は第四北越銀行との間で協議の上、保証条件を決めている。同社は年次別目標の達成状況について、報告期限までに第四北越銀行に対し書面にて報告し、目標数値を達成したことが確認できれば、残存期間中に適用される保証料率が引き下げられることとなっている。

したがって、保証条件と同社の年次別目標に対するパフォーマンスは連動しており、年次別目標達成の動機付けとなっている。

5. レポーティング

レポーティングは、以下の観点から適切である。

同社は年次別目標の達成状況について、目標達成状況に関する報告書を報告期限までに第四北越銀行に対し、年に1回提出することになっている。

第四北越銀行は、これにより年次別目標の達成状況に関する最新の情報を入手できるとともに、目標達成状況に関する報告書の内容から年次別目標の達成の判定について評価し、達成した際には保証料率を引き下げる。

以上

第四北越リサーチ&コンサルティング 会社概要

社名	第四北越リサーチ&コンサルティング株式会社
代表者	代表取締役 柴山圭一
所在地	〒950-0087 新潟市中央区東大通2丁目1番18号 だいし海上ビル
業務内容	経営コンサルティング事業、経済調査・研究事業、人材育成支援事業
電話	025-256-8110
FAX	025-256-8102

留意事項

1. 第四北越リサーチ&コンサルティングの第三者意見について

本文書については、総額引受人が発行人に対して実施するSDGsリンク・ファイナンスについて、設定する目標や取り組みに対する第三者意見を述べたものです。

その内容は現時点で入手可能な公開情報、発行人から提供された情報や発行人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

第四北越リサーチ&コンサルティングは本文書のあらゆる使用から生じる直接的、間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

2. 第四北越銀行との関係、独立性

第四北越リサーチ&コンサルティングは第四北越フィナンシャルグループに属しており、第四北越銀行および第四北越フィナンシャルグループとの間および第四北越フィナンシャルグループのお客さま相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。

また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は第四北越銀行とは独立して行われるものであり、第四北越銀行からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

3. 第四北越リサーチ&コンサルティングの第三者性

発行人と第四北越リサーチ&コンサルティングとの間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係などの特別な利害関係はございません。

4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利は第四北越リサーチ&コンサルティングが保有しています。本文書の全部または一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止されています。